

「世界津波の日」高校生サミットin黒潮

11月25日・26日、土佐西南大規模公園体育館を主会場に「世界津波の日」高校生サミットin黒潮が開催され、町内の方とたくさんの関係者やボランティアの方々の協力のもと黒潮町の歴史に残るサミットとなりました。

世界30カ国から集まった、約360人の高校生たちは事前学習などを重ね母国を出発し、スタディーツアーで東日本大震災被災地・和歌山県立耐久高校の視察、宮城県の高中生と交流をした後、高知空港に到着しました。25日の昼に黒潮町に到着をした高校生たちをもりあげ隊の方々が盛大に歓迎し、体育館アリーナで開会式。その後はグループに分かれて分科会の説明や自己紹介を行い、1日目の日程は終了しました。

サミット2日目の26日、午前中からA・Bグループに分かれ分科会・フィールドワークを行いました。午後からは記念植樹・総会を行い、それぞれの分科会の報告を発表。最後に本サミットで話し合われた全世界共通の防災・減災に対する考えを集約した「黒潮宣言」を採択し、サミットに幕を閉じました。

※「黒潮宣言」はP6・7に掲載。



【開会式】

25日午後、大勢のもりあげ隊に迎えられて来町した高校生たち。体育館アリーナで開会式が行われました。最初に大型スクリーンで黒潮町の紹介映像・サミットのために作られた映像が流された後、各国の紹介があり、大方高校の高校生議長の今井さん・今村さんの2人が力強く開会宣言を述べました。大西町長による挨拶の後には東日本大震災の復興教育プロジェクトとしてOEC D(経済協力開発機構)が協力し、被災3県の中高一0人で結成した「OECD東北スクール」の元メンバーの同志社大2年、釣巻洋子さんが講演。東日本大震災の被災地の報告や復興に向け、2014年にはパリで被災地の文化や観光資源をアピールしたことなどの報告がありました。分科会の説明の後には、グループごとに分かれ各国のゲームや記念撮影を楽しむ姿も見られました。



【分科会】

分科会のテーマは自然災害に対する理解・備え・復興の3つでした。自然災害リスクの理解では世界津波の日の普及、災害教訓の伝承、防災教育など。自然災害への備えでは減災のために学校や地域、家庭でできる取組の提案。自然災害からの復興では持続可能なボランティア活動の取組など学生が果たす役割について、グループに分かれ各国の高校生たちが意見を出し合い議論しました。インドネシアやチリの被災地の学生から現地の被害報告・復興の様子が報告されたり、国ごとの防災の取組などを発表し合い、防災・減災についてお互いの認識を深めたうえで、アクションプラン(今後の行動計画)について議論しました。国内の高校生たちも事前に英語での討論の練習してきたようで、海外の高校生とジェスチャーなどを使い一生懸命、説明しました。



【フィールドワーク】

フィールドワークでは、あかつき館にある避難タワー、安政津波の碑の見学と、コウジン山への避難訓練を行いました。朝は肌寒く、ホッカイロを手に、初めて避難タワーを見る学生もいて、その頑丈さに驚いているようでした。体育館からコウジン山への避難訓練では田ノ口小学校の児童がシェイクアウトの手本を見せ、コウジン山へ誘導。「海は時に荒れ狂い牙をむくが、私たちに大きな恵みも与えてくれる。自然を愛する気持ちを込めて海に向かって叫んでいる」と上川口小学校校長先生の説明の後、生徒たちは「I love sea!」「おーい!」と海に向かって叫ぶ訓練を行いました。



【記念植樹】

26日午後、あかつき館玄関前で記念植樹、記念撮影が行われました。各国代表者と国内の学生がペアになり、幡東森林組合の方が用意した31本の黒松の苗が外国大使や国会議員、関係者などの見守るなか植樹されました。

記念植樹の後は全体記念撮影をあかつき館前の階段で行いました。高校生、引率者、関係者を合わせると600人を越える人数が階段に並びクレーン車を使った大規模な記念撮影となりました。



【総会】

26日午後3時から、体育館アリーナで総会が開かれました。議長による総会開会宣言の前、安倍総理からのビデオレターが放映され、集まった高校生たちを「若き防災大使」として、母国に帰ってからサミットで学んだことを広め、今後の活動に期待していると言葉をいただきました。そのほか、東日本大震災の被災地である石巻高校生2人と石巻西高校生1人からの報告があり、3人は今住む場所にどんな災害が起きたか、予期されているかを知る必要があると述べ、そのうえでどんな地域も「まだ被災していないだけで、災害から逃れられる安全な場所は世界中どこにもない」と語り、最後に、「あなたの母国で災害が起きたら、できる限りのことをして助けると約束します。私たちは仲間だから」と呼び掛けました。分科会の報告の後、2日間の内容を総括し、防災・減災の重要性を訴える「黒潮宣言」が議長により採択されました。



【フェアウェルパーティー】

サミットの全プログラムが終わってから、新ロイヤルホテル四万十でフェアウェルパーティーが行われました。2日間のサミット大会スケジュールで高校生も少し疲れている様子もありましたが、大会が終わったことでほっとしたのか、安堵の表情も見られました。県内高校生による音頭でジュースの乾杯をした後はご馳走を囲み、生徒同士の交流を深めました。パーティーの最後では幡多舞人によるよさこい踊りも披露され、町から1人1人に鳴子がプレゼントされ、振り付けを教えてもらいながら一緒に踊りました。



【町民の方の参加】

サミット当日は町内の方を含め、たくさんの方が協力してくださったこともあり無事終えることができました。もりあげ隊として高校生を出迎え、見送りにたくさんの方が参加し、コウジン山への避難訓練を田ノ口小学校の児童、記録撮影を大方高校の生徒と町内の方、お弁当の準備をであいの里蜷川、集落活動センター佐賀北部、中山スーパーの皆さん。フィールドワーク中の交通整理を消防署と近隣住民の方、このほかにもたくさんの方の協力がありました。紙面をお借りして、お礼申し上げます。



【高校生議長 大方高校 今村 琳花】

今回の高校生サミットの議長の話をしていただいた時は、正直なところ、英語がそれほど上手に話せるわけでもないし、人前で話すことが得意なわけでもないで、私でいいのかなと不安でしたが、挑戦してみようと思ひ引き受けました。東京での調整会議に出席し、総理大臣や外務大臣、二階幹事長との面会を通じてこのサミットに多くの方々の思いが詰まっているのだと感じました。高知市での宣言文検討会や県内の参加する高校生の事前学習会にも議長として参加し、自分で本当がいいのかなという不安がますます大きくなりましたが、多くの人の思いを忘れずにしっかりやりきろうという決意を固めました。当日はみんなで防災に対する意識を高めてもらいたい、また自然がもたらす悪い面だけではなく、良い面も知ってもらいたいという気持ちで総会に臨みました。緊張しましたが、楽しくできました。また世界にはたくさんの方がいろいろな文化があることを学びました。

サミットを通じて多くの国の人に出会い、いろいろな考え方を学べ、視野が大きく広がったと思います。将来はこの経験を活かしていきたいと思いました。



左、今村さん。右、今井さん。

【高校生議長 大方高校 今井 恋】

最初、議長の要請を聞いた時はサミットを通じて世界のいろいろな人と交流ができ、英語を話す絶好の機会になると思い、引き受ける決心をしました。東京での調整会議に出席したり、総理大臣や多くの方々に面会をしたりするにつれ、徐々に今回のサミットが大きなものだということを実感していきました。また、サミット前に県内の高校生のプレゼン発表の研修会に参加し、津波や地震への防災対策の内容に、私ももっと勉強をしないと改めて考えさせられました。当日は多くの高校生の意見を聞き、津波の危険性や防災についてしっかりと学ぶという気持ちで臨みました。議長席に座った時には、みんなの顔が見えて緊張が最高潮に達しましたが、無事にやり遂げることができました。

今回のサミットを通じて家族で津波や防災について話し合う機会が増えました。また、サミットで各国の高校生が英語で意見を交換しているのを見てとても驚きました。自分ももっと英語を話せるようになり、英語に関係する仕事に就きたいと強く思いました。黒潮町に津波が来る際には私達が率先して、地域の方々と協力しながら少しでも被害を少なくできるようにしたいと思います。

黒潮宣言

国連総会において「世界津波の日」が制定されたことを記念し、私たちは、世界30ヶ国から、2016年11月25・26両日、南海トラフ地震による甚大な津波被害が想定される高知県黒潮町に集まりました。

世界各地で自然災害が大きな被害を及ぼし、多くの人々が復興に立ち向かっています。私たちの住む国や地域は多様であり、発生する自然災害や、防災に対する取組も様々ですが、すべての人々の命を守りたいという願いは同じです。

今日、世界の友と、災害から人々の命を守るために、そして被災地の復興のために、私たちは何をすべきか、また、どのような取組ができるのかを学び合いました。

このサミットを通じて、世界での津波リスクと津波による甚大な影響を認識し、先人たちの防災・減災の志を後世に伝える責務を引き継ぎ、津波災害をはじめとする災害から一人でも多くの尊い命を守るため、できうる限りの努力をする決意をここに宣言します。

1 私たちは学びます。

- 自然災害への理解を深めるため、それらの仕組みや被害、過去の歴史を正しく学びます。
- 人々の命を守るため、防災に役立つ知識や技術・取組を学び、研究します。
- 被災した方々から、私たちはどのように災害に立ち向かい、どのように生きるべきなのかを学びます。
- テクノロジーを駆使して学びます。

2 私たちは行動します。

- 自然災害の記憶の風化を防ぎ、防災意識向上のための啓発活動を絶やさず行います。
- 助けられる人から助ける人となる自覚を持ち、人々の心に寄り添うボランティア活動を積極的に行います。
- 防災への取組を地域社会と行政に提案するなど、地域社会の一員として地域づくりに参画します。

3 私たちは創ります。

- 学び得た知識や技術、若者らしい斬新な発想をもって、あらゆる人の防災に役立つ物や仕組みを創造します。
- 世界の友と生きるため、地域や国を越え、共に学び、協力しあう高校生間のネットワークを創出します。
- 次代を担う防災リーダーとして知恵と行動力を発揮し、私たちと未来の子ども達のために、地域の活性化はもとより、災害に強い街や国づくりに貢献します。

そして、自然の恵みを享受し、時に災害をもたらす自然の二面性を理解しながら、その脅威に臆することなく、自然を愛し、自然と共に生きていきます。

2016年11月26日 「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮

The Kuroshio Declaration

To commemorate the establishment of “World Tsunami Awareness Day” at the United Nations General Assembly, for the past two days, on 25th and 26th of November 2016, we have gathered at Kuroshio Town, Kochi, which is predicted to suffer from significant damage by a devastating tsunami the Nankai Trough earthquake may cause.

Natural hazards bring severe damage across the world, and many people face having to recover their communities as a result. Although the diversities in countries and regions we live in may create differences in disasters caused by natural hazards we face and our approaches to disaster risk reduction, we all share the common goal of saving all human lives from disasters.

Today, as high school students from around the world, we have learned about what we should and can do to achieve our goal and to contribute to recovery of disaster affected areas.

We hereby declare that we will continue to make our best effort to understand the risks and effects of tsunamis, to pass onto our predecessors’ experiences and knowledge of disaster mitigation and risk reduction to future generations, and most importantly, to save people’s lives from tsunamis and other hazards.

1 We will learn.

- We will obtain correct knowledge on the mechanisms of natural hazards, and the history of damage and disasters so that we can enhance our understanding of natural hazards and their risks.
- We will learn and study knowledge, skills, and actions that are useful for disaster risk reduction to save people’s lives.
- We will learn how to face hazards and how to live our lives from people who have experienced such disasters.
- We will utilize technology to enhance our learning.

2 We will take actions.

- We will keep reminding people of the risk of disasters caused by natural hazards and constantly carry out educational activities to raise people’s awareness of disaster risk reduction.
- We will recognize ourselves as people who offer help to others instead of people who receive help and we will actively participate in volunteer activities that consider others.
- We will contribute to community development as members of the community through activities such as proposing actions for disaster risk reduction to the local community and national and local governments.

3 We will create.

- By utilizing our acquired knowledge and skills, we will create useful tools and systems for disaster risk reduction for all kinds of people.
- We will create global and regional networks of high school students to learn together and cooperate with each other so that we can live together with our friends in the world.
- We will make use of our wisdom and vitality as future leaders for disaster risk reduction. We will not only revitalize the development of local communities, but also contribute to making our cities and countries more resilient to hazards for the sake of ourselves and children in the future.

While appreciating the blessings of nature and understanding the risks that nature sometimes brings about disasters, we will love and live with nature without fearing those risks.

November 26, 2016

High School Students Summit on “World Tsunami Awareness Day” in Kuroshio